

○ 学校アクションプラン

令和7年度 桜井高等学校アクションプラン — 1 —	
重点項目	学習活動
重点課題	・自主的・意欲的な学習態度の育成と学習時間の確保
現 状	・授業はまじめに受けているが、予習や復習を含めた自主的・意欲的な学習時間の不足が見られ、学習活動の計画、実践、定着が望まれる。 ・専門学科では各種検定に向けた演習を積極的に取り組んでおり、一定の成果をあげている。
達成目標	①【普通科生徒対象】 学習時間(平日)が2時間以上の生徒の割合 80%以上
	②【土木科生徒対象】 測量士補試験・2級土木施工管理士試験の合格率 それぞれ90%以上
	③【生活環境科生徒対象】 家庭科各種検定の合格率 90%以上
方 策	・学習についてのアンケートを通して、現状を把握し、家庭学習の意義や必要性を促していく。 ・ICT機器の活用等、授業改善に一層取り組む。 ・総合的な探究の時間等を活用し、主体的な態度を育成する。 ・HRや進路学習などから資格取得や進路実現への意欲を喚起していく。 ・手帳を活用して授業や課題に計画的に取り組ませる。 ・教育用クラウドサービスを活用し、生徒の実態を調査し把握する。
達成度	①6月と11月に実施した調査における平日の学習時間が2時間以上の生徒の割合は学年別で次のとおりである。 1学年 2学年 3学年 全体(昨年度) 6月 74% 88% 94% 84%(76%) 11月 42% 72% 87% 66%(77%) ②測量士補(3学年) 80%(80%) 土木施工管理技術検定(3学年) 72%(63%) ③家庭科技術検定 100%(98%) ()内は昨年度
具体的な取り組み状況	・学習の記録や考査結果等をふまえ、担任を中心に定期的な面談を行い、家庭学習への意識付けや学習習慣の確立に向けて検討した。 ・他教科も参観できる互見授業を開催し、授業改善の参考になるようにした。 ・放課後補習、個別指導、朝学習での課題学習、専門講師による講演・講習を行った。 ・外部模試2～3回(専門学科の各学年)、公務員模試4回(希望者)、企業就職模試3回(希望者)等を実施した。
評 価	D 生徒の学習時間が2時間以上の割合が11月66%と目標を達成できなかった。1年生が昨年度より大幅に減少したが、他の学年も6月より11月の割合が低くなっている。 A 土木科の測量士補の取得率が前年と同じであった。 生活環境科は保育・被服・食物の様々な検定に挑戦している。
学校関係者の意見	学習時間の減少を懸念されているが、時間よりも、自主的に学習しようという姿勢や学習内容が大切なのではないか。 資格取得、検定合格により、生徒はより自主的・主体的に学習に取り組むと思われるため、今後も指導を継続していただきたい。
次年度に向けての課題	調査項目の検討と調査回数を増やし、教員間でデータ共有して活用することが必要である。 過年度と比較しながら検定や資格の取得者数を増やすこと、合格率を上げることを目指す。また、生徒自身の目標設定、達成度を数値化する。

(評価基準) A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

重点項目	学校生活	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻生徒の減少 ・SNS等の正しい使い方 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の登校時間に余裕がなく時間ぎりぎりに登校する生徒や通院を理由に遅刻する生徒、身体面の症状から遅刻してくる生徒が少なくない。 ・明るく挨拶をする生徒は多い。その一方で挨拶をしないなどの社会の一員としての行動規範がしっかり身に付いていない生徒もみられる。 ・校内でのスマホ使用ルールが守られていない。SNS等に安易に画像や情報をアップする行為、誹謗中傷などのトラブルが発生している。また、ゲームに興じる生徒も多い。 	
達成目標	①遅刻をしない生徒の割合。	②SNSの危険性を理解しながら活用していると答える生徒の割合。
	70%以上	90%以上
方 策	遅刻を「やむを得ないこと」とせず、朝の過ごし方や十分な睡眠の重要性について、HRや集会を通じて継続的に指導を行う。また、遅刻を繰り返す生徒に対しては、個別のカウンセリングを実施し、家庭との連携を図りながら支援体制を構築し、適切な指導に努める。	全校集会やHR、ネット安全教室の機会を通じてSNSの適切な利用と危険性について継続的に指導を行う。生徒会や生活向上委員会には、校内における「スマホ使用ルールの策定」について主体的に考えてもらう。また、家庭での使用ルールについて話し合ってもらうことで学校と家庭が連携して健全なICT活用を推進する。
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・1・2学期に1度でも遅刻をしたことがある生徒は 230 人(全校 554 人)の約 42%である。無遅刻は 324 人・58%。頭痛や腹痛といった体調不良の背景に心の悩みや不安が関わっているケースが増加。通院が多い。 ・今のところ昨年度より無遅刻者は多い。 	危険性を理解しながら活用しているは 95%。学習以外のスマホの利用は連絡や通話が一番多く 94%、音楽や動画の視聴 87%、SNSの投稿や閲覧が 80%と多い。インターネットの利用に不安を感じている生徒は 10%おり、人間関係や投稿内容などに悩みや不安要因がみてとれた。
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・朝8時30分前に生徒玄関で時間ぎりぎりに登校してくる生徒へ指導している。 ・集会時に「時間管理」と「健康管理」について目標設定と関連させ、自己管理能力を身につけることを指導した。 ・回数の多い生徒は、担任や学年担当の先生と面談を設けたりして、自律心を促したりした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1学年は外部講師を招いた「ネット安全教室」、2学年は黒部警察署員による講演により、安心安全なスマホ使用のモラル・マナー、トラブルの対処法について学んだ。 ・生徒会は「スマホ安全宣言(案)」のルールを作成してきたが、昨年同様、生徒会だけでの考えであったため、HRを使用し生徒全員による話し合いを行うことを教示した。
評 価	C 遅刻をしなかった生徒は約 53% (294/554 人)、遅刻の理由は寝坊・体調不良・通院が主に多かった。	C 危険性への理解は示しつつ、他人事として受け止め、SNS等に個人情報の掲載や写真の投稿が起きている。
学校関係者の意見	遅刻の理由として体調不良が多いということだが、先生方は面接等もしておられるので、今後も継続して、よく生徒を理解してあげてほしい。	SNSの危険性の方が、学習時間の減少よりも心配である。警察の方の講演等はいい機会だと思う。また、スマホを見ながら歩いている生徒をよく見かけるため、学校で指導をお願いしたい。
次年度に向けての課題	担任任せにならないよう、学年・生徒指導部・保健厚生部等の関係部署で遅刻の理由を共有しながら、面談の質を高めていく。	継続して情報モラル教育を行う。自他の命の大切さについて、生徒同士や教員と共に考える機会を増やし、広報啓発活動を進める。

(評価基準) A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

重点項目	進路支援	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・進路目標の早期明確化と実力養成についての効果的な手法の確立 ・組織的かつ計画的な生徒の実態把握の推進 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の記録や面談によって生徒の実態把握に努めているが、進路目標の設定ができず、見通しをもって計画的に学習に取り組むことができない生徒がみられる。 ・受験を意識した学習に取り組み始める時期が遅く、学習時間が不足している。 	
達成目標	①全生徒が進路や学習について複数の教員と面談し、進路目標実現に向けて考える機会	②卒業時点で、在学中の進路についての学習や取り組みが自分の成長に役立ったと考える生徒の割合
	1・2学年 年間5回以上 3学年 年間10回以上	80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況や行事の振り返りシートを学年や関係者で共有し、生徒の現状把握に努める。 ・担任、副担任以外の教員も面談に当たり、生徒が多く教員と関わるように努める。 ・学年や関係者で生徒の情報交換ができる場を設定し、生徒一人一人に対する個別指導をより充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部模試等の結果を教員間で共有し、学年会や検討会等を通して問題点や課題の共通理解を図る。 ・生徒の週課題、自主学習への取り組みを調査し、スタディサプリの使用等も含め、量と質の適正化を図り、家庭学習を充実させる。 ・進路講演会、大学出前講座、卒業生の報告会、職業体験会などを実施して、生徒の意欲の向上を図る。
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の面談回数の平均は、 1学年 2.5回 (3.2回, 4.9回) 2学年 3.7回 (3.8回, 3.1回) 3学年 7.9回 (7.2回, 11.5回) であった。 (昨年度、一昨年度) ※回数に含めるかどうかについては生徒と教員の認識の違いが見受けられる。 ・5回以上面談をした生徒は全校の30%(27%)で昨年より増え、全校で昨年までと同様90%以上の生徒が「面接が役に立っている」と回答し、役立ち度の平均値も上昇した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・模試や講演会、県内大学出前講座、職業体験学習を継続して実施し、一定の成果を上げている。 ・模試結果を担当者全員で回覧し、現状把握と到達点の共有を行い、生徒の状況に応じた指導につなげた。 ・スタディサプリアやGoogle Classroomを活用して教員が課題を配信するだけでなく生徒の自主的な取り組みを促すことにつなげた。 ・卒業生のアンケート結果 役立った割合 (昨年度、一昨年度) 専門学科 94% (91%, 94%) 普通科 76% (83%, 82%)
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して適切な時期に面談を複数回実施し、生活面や学習面について現状把握に努めた。 ・3学年の進路指導に関しては今年度も1人の生徒に複数の教員が関わっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の振り返りシートの内容や模試結果による情報を共有し、各生徒の学習指導や進路指導に複数の教員が関わった。 ・上級学校や企業など外部講師の講演や説明会等に参加し、進路に対する意識を高めた。
評 価	C 回数にかかわらず面談を肯定的にとえる生徒は多いが、生徒の意識に残る面談のあり方に改善の余地がある。	D 専門学科の生徒は肯定的だが、普通科の生徒の多様なニーズに対応できていない面がある。
学校関係者の意見	面談はその内容をどう捉えるかが大切だと思われる。回数よりも生徒の満足度を重視すべきではないか。	自ら勉強したいというスイッチを入れさせる工夫が必要だと思われる。桜井高校に来てよかったと思ってもらえるよう育ててやってほしい。
次年度に向けての課題	面接の実施方法や担当者を学年と検討しながら、効果的な面接の回数の確保と質の保証を研究する必要がある。	生徒が、より主体的に学習や進路の探究活動に取り組む、保護者等との共通理解にもつながる手法を研究する必要がある。

(評価基準) A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

令和7年度 桜井高等学校アクションプラン — 4 —					
重点項目	特別活動				
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の活性化 ホームルーム（HR）活動の充実 				
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度から県の「部活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」に則って部活動への加入は強制していないが、加入率はどの学年もあまり変わっていない。活動状況も高い水準を保っており、安全・安心な部活動運営に努めている。 HR活動では、生徒の自主性を尊重し、主体的な活動になる内容を模索している。 				
達成目標	①部活動に対する自己達成度 80%以上				
	②HR活動が学校生活の充実につながったと感じる生徒の割合 80%以上				
	③HR活動に積極的に参加した生徒の割合 80%以上				
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 部長会議等を通じて、各部の部長に対しリーダーとしての自覚をもたせる。 各部員たちが必要な課題を話し合い、安全で適切な部活動ができるよう 取り組んでいく。 HR活動の内容の例を示し、計画させる。 HR運営委員が中心となって計画・運営し、振り返りができるように記録用紙を活用させる。 				
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ①部活動に対する自己達成度 83% [82%] (とても頑張った 39% 頑張った 44%) ・不十分と答えた生徒は 8%。 [7%] ※ [] は昨年度 ②HR活動に対する充実度 77% [72%] (とても満足 25% 満足 52%) ③HR活動に積極的に参加 89% [85%] 				
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> 部長会議や各部顧問から集団活動の意義や在り方等を伝え、他部員への課題解決を図り、自己の生活や行動の仕方を指導した。 各大会に向けての壮行会を行うことで、志気を高めさせるようにした。 年末には部室や使用場所の大掃除を行い、環境整備をした。 桜高祭に向けてのクラスでの話し合い活動の中で互いの良さを理解し、より良い人間関係を図る機会となった。 健康や防災、進路設定や学習の進め方などの講話および芸術鑑賞を実施し、自己の成長およびキャリア形成を考える活動を行った。 				
評 価	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 休まず参加し目標に向かって真剣に取り組んだ、技能を向上させ成長できたと答えた生徒が多かった。 全国大会で上位入賞を果たした部もあって、より達成度が高まった。 </td> <td>B</td> <td>桜高祭があったことから、例年よりも積極的に参加した生徒が増え、クラス全員で一つのことをやり遂げたという満足度が上がった。</td> </tr> </table>	A	<ul style="list-style-type: none"> 休まず参加し目標に向かって真剣に取り組んだ、技能を向上させ成長できたと答えた生徒が多かった。 全国大会で上位入賞を果たした部もあって、より達成度が高まった。 	B	桜高祭があったことから、例年よりも積極的に参加した生徒が増え、クラス全員で一つのことをやり遂げたという満足度が上がった。
A	<ul style="list-style-type: none"> 休まず参加し目標に向かって真剣に取り組んだ、技能を向上させ成長できたと答えた生徒が多かった。 全国大会で上位入賞を果たした部もあって、より達成度が高まった。 	B	桜高祭があったことから、例年よりも積極的に参加した生徒が増え、クラス全員で一つのことをやり遂げたという満足度が上がった。		
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> 全校生徒の約8割の生徒が元気に学校に来て、部活動を楽しんでいることは喜ばしいことである。部活動の指導は大変だと思うが、継続してほしい。 素直で礼儀正しい生徒が多いので、HR活動や学校行事において、クラスや学校という集団の中でそのよいところをさらに伸ばしてやってほしい。 				
次年度に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> 生徒数、教員数が減少している中、現在の部活動数を維持するのが困難になってきている。部員への指導をより手厚くできるように部活動再編を検討していく。 行事や講演会等が多く、クラスでの活動回数が確保できなくなっている。年間予定を見直して必要な活動を精選し、生徒主体のHR活動になるように活動計画・運営を検討していく。 				

(評価基準) A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

令和7年度 桜井高等学校アクションプラン — 5 —		
重点項目	その他	
重点課題	心身の健康保持と学校生活への適応	進路研修
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が抱える悩みも多様化し、長期間欠席する生徒も増加している。 生活習慣の乱れから体調を崩し、授業や部活動に集中できない生徒がいる。 	進路設計に向けて、生徒の関心・意欲を高めることを目的とし、生徒の進路希望状況や各科の専門性も考慮したうえで企画・立案し、実施している。
達成目標	① 教育相談活動の充実とチーム支援会議の適時開催 ② 健康に関する自己管理能力の育成	進路に対する関心・意欲が高まった割合 80 %以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 支援を必要とする生徒に対して、スクールカウンセラーや巡回指導員との連携を深め教育相談活動の充実を図るとともに、適時にチーム支援会議を開催し、きめ細かい支援を行う。 保健だより等を通して、食事や睡眠などの生活習慣の乱れが健康へ及ぼす影響について発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路希望や適性、社会情勢などを勘案し、より最適な研修を立案する。 目的意識をもって積極的に参加するよう、事前学習の時間を計画的に位置づけ、指導する。 進路意識だけでなく学習意欲や資格取得への意識が高まるように指導する。 多様化社会を担う世代であることを意識させることができる活動等も取り入れる。
達成度	<ul style="list-style-type: none"> チーム支援会議を生徒の状況や学年の要望に応じて適時実施した。 体調不良で来室した生徒に、自身の生活習慣を振り返る姿が見られた。 来室人数が昨年より3年生は140人、2年生は82人減った(12月現在) 	・進路に対する関心・意欲が高まったと回答した割合 全体 92% (普通科 94% 土木科 83% 生活環境科 92%)
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> 欠席状況やSCからの情報を元に関係者で情報共有した。必要に応じてSSWや巡回指導員から指導助言を受けた。 生徒の来室理由から生活面で特に注意してほしいことをテーマにして、保健だよりを作成した。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前に、テーマ設定、訪問企業・大学の事前調査、移動手段の計画立案を指導した。 大学・企業訪問させたことにより、大学生活や働くことへのイメージをより具体的にさせることができた。 現役大学生との懇談の時間を設けたことで進路意識・学習意欲を向上させることができた。
評 価	B カウンセリングを複数回受ける生徒が増え、長期欠席の予防に繋がっている。	B 目標は達成したが、その後進路意識を継続できていない生徒もいる。
学校関係者の意見	先生方の日頃の声掛けも大変効果的だと思われる。面談等を通して、変化に気付き、迅速・適切な対応をお願いしたい。	生徒の達成度が全体で92%であり、目標が十分達成されているので評価はAでよいと思われる。
次年度に向けての課題	生徒や先生方の要望に迅速に対応できるよう、カウンセラーや巡回指導員との協力体制を整えていく必要がある。 生徒の時節に応じた健康管理への意識が高まるよう指導していきたい。	今年度は例年と同様の研修内容であったが、時期によっては実施が困難な内容があることや、研修内容によって生徒の満足度にも差があることを踏まえて、内容を再検討する必要がある。

(評価基準) A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった